

国交省、環境省はJR東海の暴走を許すな！

6月17日午前、衆議院議員会館でリニア新幹線について、環境省と国土交通省の関係部局の職員と質疑を行いました。環境省からは自然環境局の野木宏祐氏ら4人、国土交通省からは鉄道局鉄道防災対策室室長の箕作幸治氏ら6人が出席、あらかじめ私たちリニア新幹線沿線ネットワークとリニア・市民ネット東京、南アルプス・市民ネット静岡それにリニアを問う愛知市民ネットが連名で提出した質問書に答える形で交渉が行われました。詳細は、別紙報告を参照ください。

＜環境省交渉＞

「国全体の環境行政を司る立場であり、沿線地域の個別問題は所掌ではない」

「なので、大井川の発生土置き場の変更について触れなかった」

「JR東海のアセス手続きに問題は無い」



＜国交省交渉＞

「人口が減ってもリニアには十分な需要がある」

「現時点では、JR東海が自己負担で事業を進めると考えている」

「JR東海はちゃんと磁界のデータを出している」

院内集会には沿線各地から約40人が参加し、質問書に対する回答の後、会場から厳しい質問が飛びました。全体の印象では、環境省は大臣意見の中味を具体化できず、国交省はチェックどころかJR東海の支援者（サポーター）のような発言に終始していたように感じました。なお、以下の議員の方々が院内集会に参加し発言されました。ありがとうございました。



(写真左から)
阿部知子衆院議員
辰巳幸太郎参院議員
福島瑞穂参院議員
吉田忠智参院議員